

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「紺屋のあさって、越後の やのあさって」

これは本当にあったお話です。

編集者 「原稿はなじら？」

著者 「もう少し待ってください。今執筆中、執筆中」

編集者 「いつになったらできんだね？」

著者 「はいはい、あさって、いや やのあさって」

編集者 「やのあさって？ほんとだね？」

著者 「へえへえ、ほな、書きます、できます、やのあさって！」

ということで、新潟生まれの編集者は原稿をやのあさってまで待ちましたが、とうとうその日は原稿が届きませんでした。おまけに連絡もつきません。

さて、やのあさっての翌日、ごうやけてごうやけて仕方ない編集者が、

「どういんだね？へえ仕事ささね！」と著者に連絡すると、

「約束通り今日できました」と何事もなかったかのように言いました。

なんの反省や詫びの言葉もない関西地方出身の著者に、編集者が抗議したのですが、まさに暖簾に腕押し、糠に釘。「へえ」だの「そやさかい約束守りました」の一点張り。

「連絡くらいしなせてば！」と生真面目な編集者。さて、この顛末はいかに？？？

実は、このやのあさってがくせものでして、新潟では、今日の翌日があす（明日）、その翌日があさって（明後日）、その翌日がやのあさってというように使われているのです。

ですから、新潟ではきょう（今日）⇒あす⇒あさって⇒やのあさって⇒しあさってという数え方が成立します。

一方この新潟暦（！）に対して、全国区では主

に、明日の翌日はあさって、その翌日がしあさって、そのまた翌日がやのあさってとしています。もともと、このあす⇒あさって⇒しあさって⇒やのあさっての言い方は、西日本の表現（西部方言）だったようです。これに対しての新潟表現は東部方言といわれて、かつては東日本で使われていました。

それが、いつのまにか、西日本の表現が全国的に広まったようです。ですから、新潟県のやのあさってでは、他の地方にくらべて24時間の時差（？）があるため使用上注意が必要といえましょう。

新潟のしあさってでは明日を入れて4日目を表しますが、他の地域では3日目を表しますから、これまた注意が必要ですが、四明後日（しあさって）と表記すれば、新潟表現のほうが納得できるようにも思われます。

とは言え、これらの表現は紛らわしいうえに、誤解を生ずることもあるため、人との約束等には注意が必要な言い回しです。ですから、報道や公的表記は、やのあさってもしあさってもし「明々後日」として、一般的には具体的な日にちを使用しているといえます。

全国に目をむけると、徳島では、「ごあさって」だのという言い方もあります。ひょっとすると「ろくあさって」「しちあさって」なる用語もどこかで使われているかもしれません。

京（今日）のしあさってでは、越後のやのあさって・・・まあ、やのあさってだの、しあさってだの、一日二日の違いは、気にしないさ～、とはもうひとりの私のつぶやきです。

